

平成30年度 学校経営報告

	柱	平成30年度の取組と自己評価		
		教育活動の目標取組	重点目標への取組	数値目標等の達成度合い
				30年度目標（実績）
学 習 指 導	学力向上・授業時間確保・授業改善	○教科ごとに組織的な生徒の学力向上を図った。 ○平成32年度から実施される次期学習指導要領に対応した教育課程を編成を目指し、カリキュラム検討委員会を発足し検討を重ねた。 ◆個々の教員の優れた取組を全員で共有するために、校内研修を6回実施 ◆3年間を見通した教科指導法の構築 ◆教科ごと学習到達度を明確にした授業展開の推進 ◆教科主任を中心に生徒の学力を客観的に把握し、指導内容や指導方法の工夫改善を推進	▲日常の学習を補うとともに、大学進学等の進路実現に向けた補習講習等の実施 ▲授業外での学習習慣の確立をめざし、各教科間で内容・分量・頻度などを調整しながら課題宿題等の積極的取組 ▲資格取得に向けた取組の推進 ▲同一学年同一教科の考查問題共通化の推進 ▲生徒の多様な進路希望に柔軟に対応できるよう教科・科目を編成するとともに、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に対応した教育課程の編成	・生徒の授業外学習時間一日60分以上の生徒割合50%以上 （1年27%, 2年23%, 3年30%） ・漢研、英検等受験者数資格取得者数の増加 ・月1冊以上本を読む生徒が全体の80%以上（33%） ・授業計画遂行（授業時間の確保等）90%以上（授業計画に従って遂行） ・ICT等を活用した授業実践に取り組む教員95%以上（ほぼ全員） ・相互参加型授業を全教科で実施（若手を中心に実施） ・生徒による授業満足度75%以上（1年53%, 2年55%, 3年75%） ・平日における自習室の活用（3年生を中心に活用） ・教科間で連携した学習課題の提案（随時）（校内研修で共有化）
		次年度以降の課題と方針	生徒の授業外学習時間については、次年度も引き続き取組を進めていく。言語能力の向上を目指し、読書活動を推進したが、読書量については二極がした様子が見られ平均すると微減という結果になった。言語能力向上の観点からも本を読むという取組について引き続き強化していく。授業満足度は学年を追うごとに数字が上がってきており、教員の授業力アップとともに生徒の学力の底上げを図っていく。	
進 路 指 導	系統的な進路指導の充実	○生徒の個性や能力に応じた主体的な進路選択が行われるよう、進路情報を適切に提供した。 ◆インターンシップや地域の人材を活用した交流等を通し、生徒の勤労観を育成した。 ◆生徒に自分の役割や責任を果たすことにより人の役に立つ喜びを体得させ、自己肯定感を育ませた。	▲1学年全員対象のインターンシップの実施 ▲進路情報の収集・共有を図り、全教職員が進路指導の方向性を揃える ▲生徒の個性や能力に応じた進路選択を支援 ▲学力の推移データ等の蓄積による個人カルテ作成や模試分析会等の実施による組織的進路指導の実現	・進路希望達成率95%以上（85.7%） ・進路便り発行（毎月）（進路だよりとしては発行せず） ・2者以上の面談の実施全学年年間3回以上（達成） ・本校キャリア教育への生徒肯定評価85%以上（1年70%, 2年66%, 3年66%） ・インターンシップの1学年生と全員参加（全員参加） ・MARCHG級大学以上への合格者3名以上（H29：2名 H30：0名） ・日東駒専級大学への合格者10名以上（H29：9名 H30：3名）
		次年度以降の課題と方針	1学年全員対象のインターンシップでは、事前学習、インターンシップ、終了後の報告会と一連の流れをつくり、生徒の勤労観を育成した。大学進学については、安全策としてランクを落としたAO、推薦入試に流れる傾向があり、MARCHG級や日東駒専級大学への挑戦を敬遠する様子が見られた。その中でも、国公立大学に合格者がでるなど、地道な努力が実を結ぶことの証明がなされたことが朗報であった。引き続き取組を強化していく。	
生 活 指 導	規則正しい生活習慣・規範意識の醸成	○生徒に寄り添い向き合う指導を通して、生徒の公共心・道徳心を育み、自律的な生活態度の育成を図った。 ○他人を思いやるとともに自分自身も大切にできる人間性を醸成し、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して取り組んだ。 ○自分の命を大切に生徒を育成する。 ○日々の校内、校舎内周辺の環境美化を徹底した。 ◆ルールやマナーの定着にむけた指導の徹底を進めた ◆校内美化活動の徹底 ◆ボランティア活動の推進を行った。	▲暴力・いじめ・窃盗等の問題行動に対する厳格な対応により生徒が安心して生活できる安全な学校の提供 ▲生徒会活動等が充実するような積極的な支援 ▲生徒の個性を尊重し、生徒自身が相互に高め合う集団作りの推進により、自主的・自律的な生活態度の育成 ▲校内、校舎内周辺の美化活動による生活環境の改善 ▲地域と連携した清掃活動に積極的に取組み、地域貢献意識の定着 ▲生徒への情報モラルの定着 ▲遅刻根絶に向けた指導の徹底	・校内規律の理解 95%以上（教職員の評価 89%） ・遅刻述べ回数3500以下（全学年総数 5,269回） ・自転車のマナーが良好75%以上（1年92%, 2年83%, 3年87%） ・情報モラルが身についた生徒の割合80%以上（1年89%, 2年82%, 3年87%） ・近隣への生徒による情報モラル出前授業の実施2回以上（SDGsに内容を変更して出前授業を実施） ・いじめ防止、自殺防止の取組評価80%以上（1年70%, 2年66%, 3年66%） ・生徒によるルールやマナーの自己評価85%（1年92%, 2年83%, 3年89%） ・生徒ロッカー、自転車の施錠の徹底100%（100%とならず） ・チャイム着席の徹底100%（100%とならず）
		次年度以降の課題と方針	自転車のマナー、情報モラルについて生徒の自己評価は概ね良好だが、地域住民からの苦情などを考えると解決すべき課題が多くあると考える。社会常識の定着が不十分な生徒もあり、引き続きマナー・モラル教育を強化し、社会常識を身に付けさせていく。施錠やチャイム着席などごく一部の生徒の影響で100%の壁を阻んでいることから、例外なく引き続き取組を強化していく。	
健康づくり	健康の保持増進	○生徒が生涯健康で充実した生活を過ごすための基礎知識と体力向上のための習慣を身に付けさせる。 ○個々の生徒に応じた指導・支援を充実させる。 ◆合理的な配慮を必要とする生徒への支援 ◆カウンセリングや相談体制の強化	▲生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制の強化 ▲全教職員による保健・衛生管理を徹底による、生涯にわたる健康維持・増進に必要な基礎知識や習慣の育成 ▲カリリッパ教育の推進による国際理解やスポーツへの興味・関心の増幅	・保健だより年6回以上発行（年10回発行） ・保健に関わる研修会を1回以上実施（行事等に合わせて2回実施） ・体力テストによる全生徒平均値の前年比1.1倍以上（1.1倍とはならなかったが、都立高内の相対的な順位を上昇させた） ・カウンセラーによる生徒全員面接の実施（4月）（健康診断と合わせて一年生全員面接を実施）
		次年度以降の課題と対応策	カウンセラーによる1年生全員面接を実施し、カウンセラーへの相談のハードルを下げたことにより、普段から生徒が相談しやすい環境を作った。体力向上の指標として体力テストの結果で比較したところ、昨年まで町田市内高等学校7校中6位から町田市内都立高3位と大きく躍進した。次年度も生徒の体力向上に力を入れていく。	
特別活動	自尊感情の高揚	○学校行事のねらいを達成し、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地の育成に取り組んだ。 ○部活動の積極的な取組を奨励し、心身の健康を進めた。 ◆防災に係る活動の推進 ◆体育活動に親しむ行事の実施と体力の向上 ◆公式戦の参加奨励 ◆公的発表会等への参加の奨励	▲共に行事に取り組んだ仲間との絆を深め、達成感を体感させる ▲生徒自身の自尊感情を高め、生徒の健全な心身の育成 ▲体育祭・文化祭の質と安全面の向上 ▲部活動の積極参加 ▲事故の未然防止と事故発生時の適切かつ迅速な対応の徹底 ▲部活動特別強化校事業による指導体制・競技力の向上	・体育祭、文化祭に積極的な参加の生徒90%以上（達成） ・一年生の部活動加入率年度末80%以上（76%） ・スポーツ強化校であるアーチェリー部の関東大会以上の上位大会入賞（男子団体インターハイ出場）
		次年度以降の課題と方針	入学当初は100%に近い部活動加入率であったが徐々に数字を下げているのが実情である。再入部を促すなど、部活動への参加を進めていく。部活動強化校としての支援を受け、アーチェリー部は、東京都男子団体一位としてインターハイに出場した。引き続き生徒の部活動等への参加を促すとともに努力したことが実感できる環境を作り、生徒の自尊感情を高める活動に取り組んでいく。	
地域貢献	地域連携	○学校の人的・物的財産を広く地域住民に公開し、地域での社会の体育・文化活動の拠点としての役割を果たした。 ○近隣の保育園・小中学校との交流を活性化させ、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ◆ボランティア活動への参加奨励 ◆近隣学校等との交流活動の推進	▲町田市教育委員会や近隣等との連携の強化 ▲生徒の自発的なボランティア活動を部活動部員中心の取組から生徒会を中心とした全校生徒の取組へ規模拡大 ▲地域行事の参加、地域清掃活動の実施	・アーチェリー部及びテニス部等の公開講座実施（アーチェリーのみ実施） ・近隣小学校への学習指導ボランティアの参加（算数指導に参加）
		次年度以降の課題と方針	地域行事には部活動単位で参加するとともに、生徒会が中心となって近隣の小学校と交流するなど活動の輪を広げた。公開講座はテニスの指導者が不在となり、アーチェリーのみの実施とした。引き続き地域から信頼される学校・生徒を目指して地域連携を進めていく。	
広報活動	学校PR	○ホームページなどを活用し、日常的に中学生やその保護者に学校の魅力をアピールするとともに、学校説明会等により本校の取組状況を伝え、本校で学ぶ魅力伝えた。 ◆行事・部活動等の教育活動の積極的な情報発信 ◆内容と鮮度を重視した情報発信 ◆中学校等への広報活動、体験授業等の実施。	▲学校説明会・学校見学会などの工夫や分析調査、ホームページの一層の充実による本校で学ぶ良さをアピール強化 ▲入学選抜における希望者の回復及び入学選抜における高倍率の獲得 ▲町田地区を中心とした中学校訪問の強化及び他地区へのアピール訪問の拡大	・HPの更新300回以上（400回以上） ・学校説明会用DVDの最新版完成（8月）（学校説明会用映像を作成し活用した） ・中学生来訪者数1400名以上（4307名） ※体育祭・文化祭含む ・町田市内中学校訪問各2回以上（延べ2回以上訪問） ・出前授業、出前説明会5回以上（4回）
		次年度以降の課題と方針	中学生から興味をもってもらえるレベルにはなっているが、女子生徒へのアピールが弱く、特に女子生徒から進学先として選んでもらえるまでには努力が必要と考える。本校の魅力として体育祭などの行事に人気が集まるが、日々の教育活動や進学実績なども積極的にアピールしていく。平成30年度の入学選抜において希望者全員入学を経験したが、学校そのものは大変落ち着いた。引き続き本校の良さを伝え、中学生や保護者に選んでもらえるような学校づくりを進め、積極的に宣伝していく。特にホームページの積極的な活用を推進し、学校説明会の申し込みなどに取り組んでいく。	